



花傳抄
分八卷

子 12
1656
5上



門子 12
1656
5



先哲古此修く古此巻小なる子ノ凡能
藝とありふり人少人ハ才一乃い海
一此之才一よ好也博奕大洞三堂或
く古人持や藝者やばよ色浄減はあ
く流風姿花傳才二角来けいこれ多々
此藝小かわく大祝七歳といく初と寸此
乃此其藝古必其との以自然と治才よ
と小のたる風神の二一廉はうりきこれ

英傳八

一

あひし音曲とて一はいつまふ度ふとに
てそふとまひごころかろひ張付事心の後
小筋とすく一とこのこにう一あ一やま
へうすらまうよううこいさむれと音集氣
と共く能物くさく成立ぬれえやそ終
八とまふ也只音曲うこき舞ぬとあてて
務とすくうのれ物まのたといとく
くさう一回数や大なるとれ申樂は
まひへるの三番四番乃時分らかんとす

得あひし見神とて一

十二三歳

一此年此よりいへるやむりく声も調子小
かり能も心付、後ふれし次第くま
物教とて教へ一先智成ふれし何と
はうしゆとまへる声自をせ二のた
しうあれとと後さの中かくれと記す
いよ一花やまふあうち方見の申
樂とていふとていふとていふとていふとて

（Cursive marginal note)

（Cursive marginal note)

くは高直を似合を能くあかぬきや
多し湛然の成りれしあかぬきや
ふか多し一見やしい声といひきくは
あかぬけのるよ家かむきかかす此
花はゆよの苑ふあかぬけの時分の花
さかぬけ時か此花かすくやくさ
去程よ一歌乃能の定ふ成りおん能け
いふあかぬきと苑あかぬきと
半小すんきとあかぬきと

音曲より文字より

とらふと定て大半よ

十七八歳

一此は海にあまうれ大半はよく能く
かか声かきりねれし中乃花
すくくし腰たう小成たれし
物てんきと替ねれし氣と
けつてみるものたうけあかぬき
みぬるものたうけあかぬき

いづくのすゝめあり此は乃をいひていふ人
よきうらやまをいひていふ人すう
ちあゝき声乃そか人潤子少く一初乃
さういふ成とさういふて能とす
てわういふいひていふ人かひおこたり
ぬれとさういひていふ人かひおこたり
子聲よきあといひていふ人かひおこたり
用一調子小さのさかきいひていふ人
物も来ふ物も亦声もいひていふ人

二十四五歳

一此の海より一初乃藝能定るはいひていふ
去程よけいこれさういひていふ声とすていふ
さういふも定る時分とさういひていふ道と二
川の果報と声とさういひていふ此二のハ此
時今定るや年感よむいひていふ藝能の成就
する事あり去程よ上りおまるとて人を
同ふいひていふがさういひていふ名人とさうい
て當座の花さういひていふて立相勝負

人

如

おも一とわの時人と思ふあけをそよ
 と思ひまじるありは是をこむれ何とせ
 是も三実れ花小あつ後年れさか
 中思ふ人の一と乃めつ〜もいれや
 真実の月きてい見分〜此は乃花
 こそ初心とす此あるときとめたるを
 小これ思ひてんや申樂よそんそ
 家の人世のときいなりなる風律とす
 教こそ後ま〜き半やた〜人か

次名人ふと〜まも〜是は一人あ
 き花成とたといさ〜といふ〜地まの
 とす〜小ま〜こめ名を得は〜人々ま
 を〜は〜ふ〜ひ〜い〜や〜よ〜し
 され〜時分乃花と海とれを〜る心ハ
 真実の花よれと〜さ〜る心や只人毎
 小此時分濃花小は〜ひて屋うそ花れ
 矢と〜ま〜の初心とすは此こはれ事
 一かりん〜て我位の傳と〜ら〜

心得を以て其の心を得るは一物なりん位
より上れ上りて心を得るは心を得る位
の心を得るありん位なりん位

三十四五歳

一此に汝れ能感の寃也寃以て此多し
寃悟て堪能小成ぬれん定て天下に
ゆるり思名を心得ゆ一此時天
下れゆるり思小成ぬれん思おもはし
とありん位ありん位ありん位

心得と此花ときよあれぬ事知一此
一此花ハ二十歳より一此花ハ
よありん位ハ二十歳より一此花ハ
十歳より一此花ハ二十歳より一此花ハ
とありん位ハ二十歳より一此花ハ
言ありん位ハ二十歳より一此花ハ
此後天下れゆるり思小成ぬれん
にかありん位ハ二十歳より一此花ハ
とありん位ハ二十歳より一此花ハ

四十五歳

一此は能のよき立大なる傍へ一なる中へ天下
 小ゆるされ能よは法をうたをそれよつと
 てそよ記よきれ志てと持へ一能いさ
 ら孫と一ちかあく屋りく一年にせ
 ぬれを身れ能そよそや乃能そよ
 あり先をくれある養男へ志れいさ
 かとれ人そひく西の申樂年よりて
 へあつりけ物し去程よ此一すいさきけ

此はうらさのいほある物まのいさ
 ときけり大能よあひある律とを
 けくさつとあつてとそれ志てにむ
 とそよせあひ一らひてとそくかす人
 一にとくわろれそあつてんよはま
 てそいよいほのあつとそよ能とそ
 すま一もせ何と一ていおめ濃と能あ
 一そ一此はまてう物とそん能とそ
 美乃能あそをへくれ物れも五十ち

凡そ此物教との初心よゆりて聲を
き不をきくあく色えと珍しりた
花はいやま—ふらぬ—也是まことふ
得るものもあつてはふ小枝葉すすくあ
く老あよあふまて花らして残し
也是海北あつるよ老後小あ—
花乃沈接あり

一語とあおれ又先あつてふ人の口付は
つて師道たつて洞子とつてあつてい

人はいまうく深物や甚子細はらまてこそ人
ゆきつらわつて師道乃語をみよ小園
それをぬりて小むるあつ習人の高くつ
けらつて師道の深よまをいし師道の
ふ—本ふつて又習い人の深をうけ
あ—き師道のみよふつてふち根はそ
ゆきとあふす又あつぬそのや此を法
へ所要や亦習い人ち取よつてふよき
くひ次第くよ師道いもつて習い人小

たうくういするものし是子細に習は人
れ流のういあうとせうし流あまういん
あまうい

一立昌れあひいあう二ういあう一流の
本と書人う曲と心得て文字ういり
とらうけういけういあうきも亦う
あまういあういあういあういあうい
変文字ういりてかういあういあうい
音ういりういあういあういあうい

一乃まのあういあういあういあうい
あういあういあういあういあうい
時あうい曲と心得分てういあうい曲れけ
と流根相應一てういあういあうい
あうい一あういあういあういあうい
流のういあうい文字ういりあうい
ういりあういあういあういあうい
あういあういあういあういあうい
あういあういあういあういあうい

そおのり曲と云ふおあ文字よ
れさうふ時ハ習属ノ別ノ徳古よ云
声と云く曲と云曲と云すれて潤子
と云れ潤子と云すれて拍子と云れと云
亦謡と云ぬ糸ノ先文字と云是又其後
あとと云くむる事ハ其次よ曲と云はす
其後声乃位と知是も心付と云はす
拍子ハ初中後ハ渡ハる夏肝要あり
一聲と云く小変声杖じさなる時と云

一と云はあ一と云れさうふと云
あると云くはな後よ茶と云一は是
声乃と云成たりあや声と云く小変去
都のむさふら一亦氣力ありさ
一と云くは声と云はけりはくひさの
声と云れたり一と云はつと云は
りは声と云はけりはくひさの音有
横登るよ有声と云いんとはナヤ
音曉の度音小ハ物教と云くはて曉ハ

身ありくはれうや小曲いてさの鼓とさ
あさ物あり才口よきささ乃度流れあ
まかり物ふふりてたういささ有ん
ー一惣けい乃きささはいさささー
高きハ頭あそま記あ、甚上か海ー
くい物ー手物也又ハささふさあさ
あさいまーせー亦小鼓おのち成ハ
是そかーまーさあさおのちまささ
陰陽婦又や亦あうん乃二字あり是と

たさおのちまささささ分等分よ打を
是陰陽和合と云りきさささささ
乃ささささおのちあさい物とさあさ
つげあさささささあさいさささ
おのちいりて行なるもの人思ふ程跡と
ささささささささささ物別り
乃前れさ曲の前れ曲としてさささ
前よさささささささささささ
ささささささささささささささ

一 亦おぼゆるちあつとどうみんと思ひ
 子の赤濃地ときあらと小あし一 左極小
 折分ひ入る小水ききたらち子れい坊い
 二れあつてかんを物あり 是秘事一や
 大小よかきつるれを報小らつる何のあり
 物あしうもつす此心得諸藝よ後一
 此理をゆみみれ巻小く一く有
 一物而諸藝の藝古乃心持藝古とん小く
 かくいと常少寸是法藝乃心持や

一 可年小志いひ藝れ心持十七八十えや
 いうあしつる花乃つむむるよ心得一
 二十四又三十四又乃れあるあし花のさかり
 成もく小心得一 一 年又五十五また花
 れさかりと漸且ちる心得やあしよ花
 強こもく小こひて藝とほ一 一 五十四又六
 十小あつはまもい二十四又小か多うてこり
 るさ花をう小藝とほ一 一 九や去時
 分ハちかつとあら花乃うとこあくれ

又去時かあはしといふありさうなるに或は
小心持のりひけいさうに時乃半分あり
きこえぬ物や六十の諸藝多しと云ふに
一―此れといひてさうして七十まで
藝と云ふはさうに時のおりえさう
一―あつ物ありてさうして得―

一能あるは一番よきまのひとあつる
くは年々なる時二番よきありと
ふとせ身ありてさうしてさうなる時

く物とあつてぬくせれは元をた
不時仕業乃位とこめよかありまは
とあつてさうしてさうするもの秘
一番さうして百色し取掛ありてさう
亦小くいひてありえらむ守たは
藝と云ふはさうに時のおりえさう
昔ありてさうして將東面ありてさう
将東ありてさうして面位と行―
一箇ハ中一と云ふとさうしてさうしてさうして

てよりあらはと傳へ——先ニ大祓乃迄
此方ニ初心より行はかき一處より
いへおれよかきりて教あかぬて亦おろか
れ——いへ曲身あり形をさし地合此時
介肝要也

一ち教行いゆる是是、ち祀教と同前之先
初二之書はとちやゆる内八方とあとも
——ておそき心付く時よたらち此
振かまるとあとも——おそき後を声とあとも

——甚次より務とあともをさし
あけ——いへそれいへて儀あかぬ
地やその後あしよとこ——初地
ち——ふえたる内よとあとも
乃のりあ——いへおれり——いへ
介あらとあともあらたし行たる
とあとも——儀振よはと是合所西曲也

一初云おそき先初初心成時ハいへ
く人乃よりいへるよあはとのいへる

二三人潤子いさくうこの物教の物口笛
おて極音びく——大勢あて、歌謡よほさ
れてかきさねすいち歌えらてなれ難に
て位と夢のこほり——

一ねえれあひ乃より中入のちておきそかん
りえてまれ入はもかうく語そのこも回のメ
いっねたまの梅れあひかみ——かくは家そのせ
長心うまの肝要あり

一おさふさこのふ能わ——ゆる夏あまうふ
こいある能をさるるあふ、亦あうきん
——ていねいのあふ、能同前といふて仕
舞ちらふよあふ——あまうこほりあふ
物まのせさひま——あひかり

一けいこあ——き役者あふ舞の半舞か
乃とくあふは舞ようきうす六歌小歌
あふも小よ海さ桐のとなり——して舞
そさかりは去とよらうこせおまふ物や
後かあるおひけいこれ時八物れくふ

有地ふくむ地れと雖一我より子と
 と相子小成事一是才一乃く出りや
 五〜我より子と相子に成事一
 ね〜一乃け
 いこれ〜中ハ此事あり

一徳古子潤子高く〜ぬ地や徳徳古か
 ら〜予詞むよ徳徳古あり〜可徳
 一徳古れ心小徳少〜謠あり〜鼎ふて
 あれ長徳〜あは〜湯茶〜乃ます

徳んれ人〜地〜い〜長あり〜ら〜
 ぞ〜の〜人〜と〜油火〜と〜さ〜は〜る〜事〜
 踏ぬあり〜それ一番〜さ〜て〜う〜さ〜ひ〜て〜け〜い〜
 い〜さ〜ら〜〜ま〜ぬ〜あ〜ひ〜い〜よ〜用〜さ〜い〜あ〜
 湯茶〜と〜乃〜こ〜地〜あり〜〜さ〜も〜ト〜火〜と〜
 か〜さ〜た〜て〜ら〜〜さ〜く〜れ〜人〜と〜と〜取〜扱〜す
 ま〜〜て〜徳徳古〜と〜は〜〜し〜〜一〜是徳古
 の時乃法度や〜後すれ事〜さ〜〜あ〜
 心〜う〜け〜い〜と〜ふ〜ま〜と〜さ〜あ〜よ〜ら〜右

いすのひとひとさる藝能あかる事なり
一 藝能あつてこころを秘人と行たるうら
藝の初心あつてこころを秘人と行たるうら
あつてそこあひ藝とこころを秘人と行たるうら
濃あつてさあやたつて名入乃子あつて
てよまの事を知り多うとて其身れ藝
初心あつて其藝れあけりふ桐應
てこころを秘人と行たるうら
すて其あつて思ふ事なり

一 座敷能あつたい能なり
かろり有るうけいこころ大袂あつて
あつてそのよまの事なり
一 座敷あつてこころを秘人と行たるうら
一 藝能あつて物と心得人のよまの藝
者小桐子れあつてさあつて藝能とあつて
ふ事一是たきあつて物と心得人のよまの藝
一 藝能あつて物と心得人のよまの藝
一 初心あつて人志我う上りあつて藝能なり

一人分むものあり

一徳言とまじり何少くも一藝にうまひ
人乃亦あれ是取合よれ役小出る事
異いまりあてまじり我身れを藝
もて後く成は物なり

一額を額高とあくまへけいこをよ
小てかりあていして人乃まじり
うり有た根れ藝者小は能とまじり
はかしの其人の藝ありいしり

空用ありよれ度ハ成てあて
やかりいして一せ乃同矢うぬる物あり
なみと人も藝はすこつる成ともいり
かゝとやとして藝古は
一たさふも人小物てあふ能れ度と
何れ政勢を額揚貴妃誓願寺花月
そゝぬい羽衣教盛一西王母水鏡をよ
一諸藝いりし時よはるせは度事
といはるは足跡外乃藝れとせかり

此の座一毫もあつては心替り人は同敷
きありし心もいふよりの時いてたり
物ありし心もいふよりの時いてたり
心もいふよりの時いてたり
あつては心替り人は同敷
依りて心替り人は同敷
心もいふよりの時いてたり
事なり名人の中におく心もいふよりの時いてたり
心もいふよりの時いてたり

心もいふよりの時いてたり
心もいふよりの時いてたり
物ありし心もいふよりの時いてたり
あつては心替り人は同敷
物ありし心もいふよりの時いてたり
心もいふよりの時いてたり

右松吉の備し三十五ヶ條此巻小書
心もいふよりの時いてたり
心もいふよりの時いてたり

まて少くハ藝はあつたはし一と云き
 ううゆふは物ありううくせれけ
 と心得て秘たすれ第一あり
 至るゝ蟲をそらやくあかしの
 あく休



せのこ

寛文五年己未九月吉日

